

「授業料だけでも公立高校に比べて 百万円もちがいました」

— 私立高校を卒業した生徒のお母さんの声

編 集 部

次男がこの春、私立高校を卒業して県内の4年制の私立大学に入学しました。

県内の大学を選んだのは、自宅から通学ができるので経済的負担が少なくて済むことと、私が病気で倒れたこともあって、県外の大学には行けないからです。

幸い自宅から通学できる範囲に入学したい大学がありました。電車とバスを乗り継いで片道50分もかかりません。帰りも7時半頃帰りますから、本人にとっては大変だと思いません。

小、中、高校とずっと部活で卓球に打ち込んできました。そんなこともあって高校入試では第一志望校の公立高校の受験に失敗しました。

最初は志望校でなかったこともあって、入学を嫌がっ

ていました。しかし入学後の親睦を兼ねた新入生の五頭での飯いひごう炊饗に参加してから学校に溶け込んだようです。そのときグループの班長に選ばれたことも、本人の自信に連なったと思います。

長男は公立高校を卒業しましたが、次男の場合は入学するとすぐ担任の先生が家庭訪問されたのでとても驚きました。私立高校のていねいな対応に感謝しています。

次男はあまりクヨクヨするタイプではないので、学校を嫌がったのは最初だけでした。

高校での3年間は卓球漬けの毎日で、練習で帰るのが遅く、もどると夕食後はすぐにパターンと寝るような生活でした。

高校では一応、進学コースに入りましたが、呆れる

くらい勉強しませんでした。そんなで2年生になるときには進学コースにはやっと入れる状態でした。卒業後の進路も3年生の後半になって決めました。

ところがその頃、私が病気になるって仕事が出来なくなりまして。

そのころは長男が東京の私立大学の法学部に入っていて、しかも夫が単身赴任してましたから家事をみる人もいませんでした。なによりも経済的にとても大変でした。貯金を取り崩すだけでは間に合わず、父母から経済的援助をいただきました。

半年でしたがなにしろ私の薬代だけでも一月に7万円もかかりました。

高校の授業料の免除の申請も考えましたが、私たちの収入では該当しませんでした。授業料だけでも公立に比べて3年間で100万円も違います。私たちよりもっと大変な方もいるでしょうが、こういうことは誰も話しませんから分かりません。

結局、長男は無理して卒業しても就職が難しいということで迷った末に大学を中退しました。いまは専門学校で勉強しています。この選択は長男としての責任でもあったと思います。

ですから次男も大学には行ってはいけない、行けな

いかもしれないと最後まで悩んだようです。行けたとしても県外は無理だと思つたようです。

そのときは子どもを3人も産まなくて良かったと思ひました。

大学入学と同時に奨学金を借りる手続きをしています。自宅通学だと月額6万円借りられますが、返済が大変なので3万円ぐらいにしようかと相談しています。卒業後、半年して返済が始まるので、どうしても卒業後は就職してもらわないと困ります。だからとれる資格は何でもとつて就職に有利にしたいと言っています。

大学の入学式で学長さんが「大学を出ていることは就職に有利」になると仰っていました。それは私たちが無理してでも子どもを大学に入学させる理由でもあります。どんな大学でも奨学金を借りてもとりあえずは卒業させてやりたいです。

子どもたちは私の手づくりの弁当を持って学校に通っています。もしも毎日500円の弁当を買うと月1万円以上もかかります。子どもたちも親、兄弟のことを考えるとムダな買い物は出来ないし注意しているようです。

いまは私も元気になって働いています。